

平成27年度 第2回 研究・経営評議会 議事要旨

1. 日 時：平成28年3月2日（水） 10:00～12:00
2. 場 所：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 206 会議室
3. 出席者：
（委員）喜連川委員、竹中委員、永井議長、堀田委員、山本委員

（事務局）末松理事長、大谷理事、菱山執行役、博林執行役、泉研究総括役、板倉経営企画部長、石井戦略推進部長、野田国際事業部長、加藤バイオバンク事業部長、吉田臨床研究・治験基盤事業部長
4. 議事
 1. 日本医療研究開発機構の取組と課題
 2. 平成28年度予算案について
 3. 自己評価の実施について
 4. その他
5. 議事の概要
議長より開会する旨の発言があり、出席者の報告の後、評議会の議事に入った。

議事1について、事務局より、前回の研究・経営評議会後の取組、今後の課題等について説明が行われた。
委員からは、以下のようなコメントがあった。
 - シンポジウム等において、症例が少ない中でのチャンピオンケースを発表しているケースもあったが、本来、必要な症例数を重ねてエビデンスを積み重ねるはずで、目標症例数に到達しない間に出たデータのコントロールは重要。
 - 海外事務所について、ヨーロッパではイギリスに置くこととなったとのことであるが、臨床研究のネットワークがEU全体で広がり始めており、臨床研究の数は大陸の方が多く、イギリスだけでなく、大陸側にも目を

配って頂きたい。

- 産業界とアカデミアが連携するプロジェクトを進めているのは非常に良い。特に感染症については、多くの製薬企業が研究を中断しており、また、この分野ではアカデミアと企業が組まないと薬が出ないと話もあるので、関心も高い。

議題2について、事務局より、医療分野の研究開発予算の平成28年度予算案のポイントについて説明を行った。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

- ゲノムや疾患症例のレジストリは大きければ大きいほどよく、その統合については、貢献のあるグループにある種のプライオリティを付けていくように整理できれば上手くいくものと思う。
- データの共有化はサイエンス全体でグローバルな問題となっており、医療の分野でAMEDが牽引役となるようなことを期待。
- 最近、個々の研究者が持っていたバンクを預かってくれという話が出てきているが、遺伝子解析をやる際の試料の保管や使用のルール等について、AMEDとしてどういう方針を持つかを明確にすると良い。
- 医療機器開発について、保険償還の関係で利益が取れないから開発できないという状況もあるので、保険の対象となる医療機器だけでなく、家電メーカーが扱うような、ヘルスケア関連機器に広げて考えていっても良いと考える。

議題3について、事務局より、機構の自己評価の進め方について説明を行い、委員から了承された。

以上をもって議事は終了し、議長より閉会する旨の発言があった。